

「身近に潜む土砂災害」

宮崎県 高千穂町立高千穂中学校 3年 廣木 颯真

僕が住むこの高千穂町には、自然が豊かで空気が美味しいというメリットがたくさんあります。一方で、毎年のように土砂災害が起こり、様々な人たちが苦しんでいます。僕たちが日頃生活している高千穂中学校は、高千穂峡の上にあり、ほぼ崖の上にあるような感じです。そんな高千穂中学校付近の防災マップを確認してみると、土石流警戒区域や急傾斜地特別警戒区域になっています。たびたび崖崩れが起こっていて、僕たちの学校生活に制限がかかりました。例えば、グラウンドにある部室が使用することができなくなり、なんだかんだで不便でした。

また、何日か大雨が続き普通に学校へ向かっていたらいつも通っていた道は、反対側にあった店の看板を倒す規模の土砂災害に遭いました。熊本にもつながっている結構大きな道路が通れなくなり、車同士のすれ違いができるかどうか際どいような細い道を通らないといけなくなりました。そこは大型トラックなどもたくさん通るので、大混雑になっていました。土砂崩れのあった道路は、半年以上かけて直されました。

他にも、2022年に大きな台風が直撃した時には、様々な場所で土砂災害が起こりました。例を挙げると、土砂崩れにより牛舎が巻きこまれ、飼育していた数頭の牛が亡くなった中で、たった一頭が4日間なにも食わずにいたのに助かったというような話もあります。その牛を飼っていた人の家族も里帰りし、家族のためにいろいろとしてあげていました。生き残った牛は産まれてまもない牛で、親も土砂災害で亡くなってしまっていて牛舎では1人寂しそうにしているのをみて家族の人たちが毎日のように寄りそってあげていました。僕はこの話を聞いて現実というものは、とても厳しいものだと改めて実感しました。

土砂災害を含む自然災害などは、止めたり予測したりするのがほぼ不可能だと僕は思います。しかし、土砂災害は崖や土手など危険な場所が見つかった時などには事前に防止する工夫が多々あると思います。例えば、斜面をコンクリートの柵や壁でおさえて固定したり、斜面に草や木を植えて防止することができると思います。以前、僕の家のある斜面も様々な工夫をして土砂崩れの対策を行いました。土砂崩れが起こってから防止するのでは手遅れだと僕は思います。土砂災害が起こる前から対策し、町の人の安全などを守っていかれたらいいなと感じました。他にも、家族の人と一緒に家付近などの防災マップを確認し、家族全員が違う場所にいてもいつでも合流することができるように、避難場所・避難経路をどうするかも大切になってきます。

崖崩れの前兆が気になったので調べてみました。主に3つあり、1つ目が崖から小石がパラパラ落ちてきた時。2つ目が崖から水が湧きでてきた時。3つ目が崖に割れ目が入った時となっていました。次に、土砂崩れの前兆についても調べてみました。家や擁壁、樹木や電柱が傾く・山鳴りがする。急に川の水が濁り、流木が混ざっているなど書いてありました。

今からこの先、熱帯低気圧が発生し台風ができてくると思います。もし台風が日本列島に上陸したら、大雨や台風により、地盤がゆるくなりたくさんの土砂災害が発生すると思います。自分ができる最大限のことをして、土砂災害を減らしたいです。

## 令和7年度「土砂災害防止に関する絵画・作文」作文中学生の部 銀賞

小学校から8年間避難訓練を真剣に取り組んできました。今の高千穂中学校はとても危険な位置にあります。大きな地震や大豪雨があった場合には、高千穂中の敷地が崩れると思います。もしその時学校に居た時は、避難訓練で学んだことを生かしたいです。

こんなに自然が豊かだからこそ身近に潜んでいる土砂災害から身を守るために家族で防災マップを確認し、避難場所も把握しておきたいです。また、自分の身は自分で守る自助やいつも支えてくださっている地域の人と支え合う共助を胸に日々の生活を送っていきたいです。もしも家族と別々に行動している時に土砂災害が起こったら、まずは安全な場所を確保し、移動する時は焦らず落ち着いて行動するべきだと思います。こういう場面でこそ使える物は、学校で普段から取り組んでいる避難訓練の成果を発揮することだと思います。何よりも命を守ることが一番大切だと感じました。